

## ミュンスター滞在を終えて

大学院理学系研究科化学専攻 博士課程2年 尾本賢一郎

私は ALPS プログラムの一環として、2014 年 10 月 5 日から 12 月 19 日までの約二カ月の間、ドイツ・ミュンスター大学の F. Ekkehardt Hahn 教授の研究室に滞在させて頂いた。Hahn 教授のグループでは、私の博士研究課題にも関連性の深い炭素配位子を用いた非ウェルナー型に関連する先駆的な研究を行っており、その中で私は NHC カルベン多核金属錯体の合成に関わる研究に取り込んだ。研究を通して、シュレンクテクニックを始めとする現場でしか学べない有用な技術やカルベン錯体の反応性に関する知見を習得する事が出来た。

学部時代から同一の研究室に所属してきた私にとって、海外はもちろん、異なる環境で研究を行うこと自体が初めてであり、全てが新鮮で刺激的であった。日常の研究に加え、現地での博士論文発表会やシンポジウム、卒業式を始め様々なイベントに参加する機会にも恵まれ、二ヶ月間と短い期間であったにもかかわらず、ドイツ流の自由奔放な研究スタイルの多くを体験する事ができた。これらの体験や現地での研究仲間との意見交換は、これまでの日本における研究スタイルを省みると同時に、将来のビジョンを考える大変貴重なきっかけとなったと思う。

このような貴重な機会を与えて下さった ALPS 関係者の皆様、Hahn 研究室および塩谷研究室の皆様、家族にこの場を借りて心より感謝申し上げます。